

(様式4)

## はりは 水辺プロジェクト

### 1 事業の概要

兵庫県は日本一のため池保有県であり、播磨地域にも多くのため池が存在する。ため池は、地域住民による日々の管理作業があつてこそ、機能しうる人工物である。しかし、都市部への人口流出や農業の衰退、少子高齢化などの影響を受け、管理する人材が不足しており、その傾向は今後も強まっていくことが予想される。管理が粗雑化すると、漏水や決壊の危険性が高まり、人命にも影響をもたらすため、ため池の管理のあり方を検討することは喫緊の課題である。そこで、ため池管理者の負担を軽減することを目的としたプロジェクトを生み出し、実践していくことを目的とする。具体的には、①福祉分野との連携を通して、草刈りの手間を低減することを目的とした「草管理×福祉プロジェクト」、②水入れ（ため池の水を水田に流す作業）をおこなえる人材の育成に寄与することを目的とした「水入れマップ作成プロジェクト」がある。



### 2 事業予定

大きく5つのフェーズで構成される（図1）。

#### 【フェーズ0 決起集会】

運営事務局にて、プロジェクト構想メンバーを募集・決定したうえで、プロジェクト構想メンバーが参加する決起集会をおこなう（5/11）。決起集会では、1年間の流れを事務局から説明するとともに、メンバーの親睦を深める。

#### 【フェーズ1 問題意識の共有】

スタディーツアーおよび、地域課題（ため池管理）に向けた連続講座を開催し、問題意識を共有する。スタディーツアーでは、ため池管理者の生の声を聞くだけでなく、訪問先の住民との交流を図り、実践活動をおこなっていくための関係性づくりをおこなう。連続講座では、行政や民間、学識者など、多様な方々から話題提供をしていただく。



図1 事業のフェーズとスケジュール

### 【フェーズ2 プロジェクト構想の作成】

プロジェクト構想を練るためのキャンプ（6/29～30）をおこなう。キャンプでは、プレイヤー（プロジェクトを先導していく人）にプロジェクト構想（背景や目的、計画、サポーターに求めるもの、成果目標）を発表してもらう。そして、各プロジェクトのサポーター（プレイヤーを支える人）と議論し、プロジェクトのチーム体制を固める。

### 【フェーズ3 実践と修正】

作成されたプロジェクトを実践していく。また、実践を通して出てきた課題に適した学習機会（講座）を提供するとともに、各プロジェクトの進捗状況を報告しあう場（中間報告会）を設け、プロジェクトの連携や方向性を修正する場を設ける。中間報告会は、2回おこない（9/21, 12/7）、アドバイザーとして内平隆之（兵庫県立大学）に出席していただく。

### 【フェーズ4 地元への報告】

実践されたプロジェクトがどのような効果を生んだか、みえてきた課題は何か、といった点を地域住民に報告する（2/22）。

なお、以上の活動を進めていくにあたって、事務局ならびに有志が参加するミーティングを月1回程度の頻度でおこない、情報共有および各プロジェクトの方向性を調整する。

## 3 ふるさとづくり青年隊に望むこと

青年ならではの資源（アイデアや行動力、人脈など）を駆使し、プレイヤー・サポーターとして機能することや、「はりは team ミズベ（仮）」の事務局としての役割を期待する。また、地域資源（ため池や草、竹林など）の管理や、地域ビジネス、デザインへの関心が高いことを望む。また事業終了後には、継続的に「はりは team ミズベ（仮）」に関わり、培ったサポート能力・事務局能力や人脈、気づきを活かしてもらうことを期待する。

## 4 連絡先

- (1) 団体名：はりは 水辺プロジェクトチーム
- (2) 所在地：兵庫県加古川市神野町神野 690-1
- (3) HP、SNS等：（作成中）